



Lead【ニュース】

■千葉市中央区地域活性化支援事業の報告会に参加しました(まんぶくcafe)■

2月4日(土)に中央区の補助金の事業報告会に参加しました。今年度始めた「まんぶくcafe」の報告をしました。一応の成果を認めていただきました。補助金がなくなる次年度以降の運営に課題が残るため、その方法等は検討課題です。以下が、報告内容の抜粋となります。

育ちあいのひろばたいむ「まんぶく Cafe」

育ちあいのひろばたいむ統括 石井章仁

1. 事業の状況

今年度、育ちあいのひろばたいむ(以下たいむ)では、近年全国的に広がる「こども食堂」を始めるべく、千葉市中央区「地域活性化支援事業」の補助を受け、千葉市保健所にも指導を受け、適正な衛生管理を行った上で事業を実施しました。

たいむは、通常、平日 10:00 から 16:00 までの OPEN となっていますが、毎月第 3 金曜日は close 後の時間帯(16:00～20:00)を「まんぶく Cafe」の時間とし活動を行いました。

参加料金は、大人 300 円、子ども 100 円で夕食を提供するほか、学生ボランティアも加わりながら、食事と遊びの活動を行いました。

【まんぶく Cafe の目的】

- 夕食を共に食べることからはじまる地域のつながり創り
- 子どもと保護者の居場所創り
- ひとり親家庭、貧困家庭等の親子への支援
- 子どもへの学習支援及び、食事を通じた生活支援・教育支援・防災教育を行う
- 地域の防災の拠点(千葉明德学園は中央区広域避難場所 7 か所の 1 つ)として、日ごろから地域の人(特に親子)の集う場を創る

この事業には、主に千葉明德短期大学の 1, 2 年生の学生が継続的にサポートに入り、子どもと遊んだり配膳や食事作りの補助などを行ったりしました。メニューは、子どもも大人もおなか一杯「まんぶく」になるようなメニューを提供し、おおむね 1 回に 50 食程度を、多い時には 100 食程度作りました。

ご飯を食べた後は、たいむの部屋や広々とした学内のスペースで、オセロやジェンガ、将棋、UNO などのゲームや卓球やドッチボールなど、静かな遊びや体を動かす遊びをして楽しみました。

乳幼児から小学生までの子どもとその保護者が、食事や団らんをし、保護者とともに異年齢で遊んで過ごす場を作りました。4 月から 12 月までの 9 回の開催で、のべ 556 名(大人 209 名、子ども 347 名)の参加がありました。一回平均 61. 8 名の参加があったこととなります。

千葉市中央区からの補助は、今回「スタート資金」として単年度を申請しました。次年度も同じペースで次年度も継続して行っていく予定です。

【参加人数とメニュー】

回数	月日	人数（大人）	人数（子ども）	メニュー
*金曜日				
1	4/22	22名	40名	カレーライス・サラダ・バナナ
2	5/20	27名	45名	煮込みハンバーグ・サラダ・スープ
3	6/27	44名	65名	麻婆豆腐・サラダ・オレンジ
4	7/15	25名	41名	親子丼・磯あえ・味噌汁
5	8/19	13名	19名	ミニ緑日（焼きそば、綿あめ、焼きマシュマロ、ソーセージ）
6	9/16	16名	28名	みんなで手作りピザ・ミネストローネスープ・みたらし団子
7	10/21	17名	32名	キーマカレー・黄金ライス・焼きリンゴ
8	11/11	21名	37名	ハンバーグ・ポテト・コンソメスープ・みかん
9	12/16	24名	40名	三色そばろ丼・とん汁
	小計	209名	347名	

2. 成果と課題

（1）成果

事業の成果については、多くの参加者に参加していただいたこと、きちんとできるのか五里霧中であった活動に筋道が見えたこと、学生の参加により活動がより活発になったことなどがあげられます。

多くの参加者があったことについては、主に口コミで広がっていきました。場所やスタッフの性質上、どうしても育ちあいのひろばたいむの会員が多かったですが、会員でない方も少なくはありませんでした。居住地域と絡めて、年度末の集計後、分析精査して今後、さらに利用者の枠を広げていくための検討をしたいと考えています。

今後の活動に筋道が見えたことについては、活動を行う度に、食事の準備やその後の遊びの展開などについて、運営側にある程度の流れがつかめてきたことが大きかったといえます。当初はドタバタとする場面もありましたが、回を重ねるうちに適切な運営がなされるようになり、短大内外を問わず様々な協力もありました。また、参加者も自覚を持ち、何も言わずとも片づけなど手伝って下さるようになりました。

保育者を目指す短大の学生の協力は、本事業にとって最も力強いサポートであったといえます。食事の前後、学生と子どもたちが遊び過ごすことによって、食事に加えて異年齢で遊ぶ時間が作れ、かつ親同士の団欒も生まれました。今後も、食事だけでなく、その前後の遊びも充実させていきたいと考えています。

（2）課題

一方、課題については、メニューや役割など、運営側の体制づくりが必ずしも計画通りにいかなかった点があげられます。様々な方の手伝いや力を、うまく生かせなかった場面もありました。今後、こうした地域のマンパワーを生かすような運営を心掛けていきたいと考えています。

また、現代の貧困はモノを持たない「絶対的貧困」ではなく、傍目からはわかりにくい「相対的貧困」であるといわれています。まんぷく café においても、1年の活動では援助すべき貧困層の抽出と援助活動までに進むことは難しかったため、今後、どうしたらこうした相対的貧困層をさりげなく取り込めるか、どのような支援が可能かを探っていきたいと考えています。

■ いろいろな人とのかかわりを通して ■



3歳のRくんは、1月に妹が生まれたこともあり、おじいちゃんと来室していました。おじいちゃんは、自分のお孫さんだけではなく、近くにいる子どもたちの遊ぶ様子を穏やかな表情で見守ったり、時には一緒に遊んだり、ゆったりと過ごされていました。

ある日の午後、3歳のRくんが「Rくんのおじいちゃん、コマをやりたい！」と、おじいちゃんのところに行くと、「ペーゴマなら昔やっていたけど、このコマはできるかな？」と、ペーゴマとは紐の巻き方が違うコマにおじいちゃんも挑戦することになりました。その様子を見ていた孫のRくんと、近くにいた2歳のTくんも集まってきました。きれいにコマが回っているところを見て、「おじいちゃん、すごい！」と、子どもたちも喜び、「やって！（コマに紐を巻いて）」「おしえて！」と、おじいちゃんに

コマを教えてもらいながら何度も挑戦する姿が見られ、紐を巻いたり、コマを回したりすることはできなくても、とても集中していました。時折、大きな笑い声も交じりながら、いつもとは違った楽しい時間になっていたように感じました。

普段のたいむではお父さんと来室して、よその子どもと一緒に遊んでいる様子は時々見かけますが、おじいちゃんと2人で来室し、よその子どもとかがわって遊ぶ姿を見かけることはとても珍しいことで、新鮮な気持ちになりました。また、スタッフとの会話では、子ども時代に遊んだ遊びやお孫さんのお話しなどをお聞きし、スタッフ自身が昔の遊びに興味を惹かれました。

このような誰でも来られる場となることで、自身の体験話や様々な話を聞く機会が増えると思います。子どもはもちろんのこと、たいむ会員、学生、スタッフが各世代の人たちとかがわること、知識だけでなく、いろいろな方面への興味、関心がもてるようになるのではとも思いました。

2月10日の昼食時に、短大正面玄関の所で、2年生の学生5名が【カンボジアの子どもたち】に衣服や募金をお願いします。」と呼び掛けていました。学生たちがたいむの廊下にて活動のお知らせをしたところ、みなさんが活動に興味や関心を示してくださり、子どもと一緒に募金や子ども服などを譲っていただきました。

子ども服を提供したMさんは、以前から学生たちの掲示板(授業報告)を見てくださっていて、カンボジアの気候などについて調べ、子ども服など少しでも活動に協力できないかと思っていたそうです。学生に、「もっと声をかけてくれたら、たくさんの人に協力してもらえると嬉しいよ」「遠慮せずに、たいむに来てくれたらよかったのに」など、温かいアドバイスをしていました。



Mさんからの話を聞いた学生たちは、感謝の言葉を伝えるとともに、自分たちの活動が学生と職員間だけではなく、たいむの保護者にも伝わっていたことが嬉しかったようです。

授業を通して体験し学んだことを、学生自らが目的や目標をもって次の活動へと繋げていく姿勢に保護者が共感し、今回のような嬉しい結果になったと思います。保護者、学生という切り離れた関係にならず、日常的に互いに協力し合える関係を築くこともできるのではないのでしょうか。今回改めて、人と人のかかわりや繋がりの大切さを感じた出来事でした。

《有志の学生、2月15日～2月22日 カンボジアへ》

・障がい者施設 1ヶ所 ・児童養護施設 3ヶ所

「みなさんからお預かりした募金や衣服、玩具などの物資を無事に現地にて直接お渡すことができました。ありがとうございました。」と報告がありました。

◇節分の豆まきをしたよ！◇ 2月3日(金)



2月3日(金)に、たいむでも福豆をまいて厄払いをしました。豆まきの前に、絵本やペープサートで節分について話をすると、特に2、3歳の子どもたちがよく話を聞いていました。

節分の話の後に、少し時期は外れましたが、たいむでも鏡開きを行いました。この鏡餅は、先月の餅つきの時に作った鏡餅で、たいむの靴箱の上に飾ってあった物です。子どもたちの前に運んで来ると、何が始まるのか興味津々で、スタッフが金づちで鏡餅を割る様子をじっくりと見ていて、不思議そうな表情、驚く子、やってみようとする子と様々でした。保護者と一緒に金づちで鏡餅を割り、みんなの順番が回ったところ、階段から何

だか不気味な音が聞こえてきました。スタッフが、「ちょっと見てくるね！」と様子を見に行くと、そこには鬼がいたのです。急いで子どもたちに升に入った福豆を渡して、「鬼をやっつけよう！」と声をかけたものの、怖さのあまり泣き出す子が続出しました。

しかし、勇気を振り絞って一人で豆を投げられた子、保護者と一緒に投げた子と、頑張る子どもたちもいました。また、怖くて投げられない子、保護者から離れられない子など、子どもたちの泣き叫ぶ声が廊下中に響きましたが、どの保護者も抱っこをしながら、子どもたちの様子を微笑ましく見守っていました。みんなのおかげで、「悪いことはもうしません。鬼の島に戻ります。」と言って鬼は戻っていきましたが、鬼と一緒に記念写真撮ろうということで、強張った表情の子どもたちが写真に納まりました。



豆まきの後には、みんなでまいた豆を拾いきれいに掃除をし、なぜか鬼から揚げ餅(スタッフが事前に用意しておいた)が届いていたので、それを食べました。揚げ餅を食べると、今まで泣いていた子どもたちに笑顔が戻り始めましたが、まだ鬼が来るのかと不安そうな子どももいました。

近年では、豆まきの後の片付けの手間であったり、豆まきが近所迷惑になったりという声を耳にします。そこで、たいむでは節分の際には、日本の風習を少しでも子どもたちが体験できるようにと考え、小袋に入った豆ではなく、ばらの豆を升に入れて投げるようにしています。節分に、わざわざ子どもを泣かせてまで鬼を登場させなくてもよいのではないかという声もあるかもしれませんが、く実際に自分の目で見て、本物の福豆を投げる)ということは、一つの体験としてあってもよいのではないかと思います。「鬼は外、福は内」と言いますが、目では見えない者を子どもたちに話すことはとても難しいかもしれませんが、こういったリアルな体験をすることにより、厄払いという行事や習わしがあるということを学んでいくのではないのでしょうか。普段なかなか体験することが難しいことでも、みんなで一緒に体験することは成長していく中でとても大切なことではと考えます。



左：節分の様子



右：揚げ餅

◇第2弾！！ えっこクッキング♪◇ 2月15日(水)

2年生の櫛原悦子(いちほらえっこ)さんによる『えっこクッキング♪』を行いました。今回は“白玉”と“マカロニ”が主な食材となり、当日は4組11名の参加がありました。櫛原さんは50代の主婦の方で、ボーイスカウトなどを行っている経験から、たいむの子どもたちとかかわることも楽しみにしています。そういったことから、「たいむのお子さんたちと、おやつ作りをしたいんです」と、櫛原さんから案が出て、お粉行いました。2、3歳の子どもたちがお母さんと一緒に調理しました。



白玉粉を水ではなく、木綿豆腐で混ぜ合わせ、こねていくようにしました。「水切りの木綿豆腐をそのまま使うことにより、豆腐の風味や白玉が柔らかくなる」といった豆知識を大人たちは楽しんで話していました。子どもたちは、お母さんたちに手を添えられたり、一人で一生懸命こねたりして、丸めていった白玉を茹でていきました。櫛原さんが事前に“ヨモギ”を摘んできていて、ヨモギを茹で、白玉に混ぜ合わせていきました。生地の色が白色から緑色へ変わっていく様子に、子どもたちは不思議そうな表情で見っていました。

自分たちが一生懸命にこねて、丸めた白玉が茹で上がるととても喜び、「早く食べたいね」「おいしそうだね」など、どの子にも笑顔が見られました。お母さん方は、フルーツを切ったり、食器の用意をしたりなど分担して作業をし、子どもと一緒に白玉、フルーツ、アイスクリーム、あんこなどを皿に盛り付けていきました。他にも、きな粉のトッピングをすると、「フルーツにきな粉がかかっても美味しいだね」と、新たな味の発見もありました。

もう一つの食材、マカロニときな粉で“マカロニのあべかわ”を作りました。まだ白玉が食べられない子でも食べられるおやつ作りになるように、保育園の定番おやつのである物を取り入れたことで、1歳の子どもたちもみんなと一緒に食べることができました。何回もおかわりをする子どもたちの様子を微笑ましく見守りながら、「マカロニにきな粉をからめるだけで、おやつになるんだね」「これなら簡単にできるね」「給食に出ていたやつだ！懐かしいな」と、こちらのメニューも思いのほか好評でした。



昨年の10月に、櫛原さん主体で“がんづき”という東北地方のおやつを作った際に、参加したお母さん方から「子どもと一緒におやつを作るのっていいね」という話がありました。今回参加した方も、料理が好きだったり、子どもと一緒に作ったりすることが好きで、調理中はみんな子どもを見合い、手を貸しながら、ゆったりと行うことができました。また、自分で作って食べる喜びもあり、「楽しかったね」「また作りたい」と、子どもたちも楽しめたようです。



◇ひな制作をしたよ◇ 2月13日(月)～2月28日(火)

子どもの成長の記録としてシンプルかもしれませんが、人形の着物部分を手型、足型をとって作りました。(お内裏様は足型、お雛様は手型)

型をとる時に、筆を使って絵の具を手、足に塗っていきました。筆を使うことで均一に色が付けられる他に、塗られる時のくすぐったいなどの感触を味わったり、子どもとのコミュニケーションの時間になったりすることも考えました。向かい合って行うことなので、子どもの顔を見ながら、「こちょこちょ、くすぐったいね」など笑い合うこともできました。1歳の子どもたちのなかには、初めての体験に泣き出す子もいましたが、対照的にお母さん方は「家ではなかなか足型はとれないから、こういう機会って嬉しいね」と話していました。

お雛様の顔など本体ののりづけはお母さん、子どもは顔を描くというように制作の工程を分担したり、大人の手を借りながら1人で作る子もいたり、たくさんの可愛いお雛様が仕上がりました。



◆ 春ひなまつり たいむ ◆

3月3日(金)は桃の節句ということで、たいむでもささやかなお祝いをしようと思います。当日は有志のお母さん方が、ちらし寿司を作ります。

【日 時】 3月3日(金) 10:30~12:00

【場 所】 たいむ

【参加費】 大人 400円 子ども 100円

【持ち物】 飲み物など、各自で必要な物 ※ 箸、皿はこちらで用意します。

◆「おつかれさま会(仮)」をやります!!◆

「子どもたち大きくなったね」「1年間いろいろあったね」など話ながら、みんなで楽しい時間を過ごしませんか？

【日 時】 3月9日(木)

※ 参加費などの詳細は後日お知らせします。

【場 所】 たいむ

※ 参加される方は、3月7日(火)までに受付にある名簿に記入、または、たいむ直通電話にてスタッフにお伝えください。

◆たいむ閉室期間について◆

室内環境の見直しや改善などをするにあたり、3月21日(火)から3月25(土)まで、たいむをお休みさせていただきます。

また、入学式と短期大学の都合により閉室させていただく日がありますので、事前に予定表の確認、またはスタッフにお問い合わせいただけますよう、ご協力の程お願いいたします。

※ 新年度は、4月4日(火)からとなります。

たいむを育てる会(運営委員会)に参加していただける方を募集します!

◆育てる会(運営委員会)で検討する内容◆

- ・たいむの運営や内容について
- ・たいむの行事や企画について
- ・その他たいむに関するあらゆる事柄について

◆日時◆

毎月、第4火曜日 10時半~12時を予定しています。

◆特典◆

- ① 年間パスポート(¥1800分)
- ② まんぶくカフェ無料券5回分
- ③ たいむカフェコーナー利用券(行事等でも使用可)など

◆募集期間・応募方法◆

- ・定員5名程度(応募者超多数の場合、抽選となります)
- ・2017年2月1日~3月31日まで
- ・お申し込みは、たいむメールアドレスまでメールでお申し込みください。 oyako@chibameitoku.ac.jp
- ・お問い合わせは…たいむスタッフまでお願いします!

